





チーム  
訪問

# 佐賀・嬉野の高原に 「卓球桃源郷」を訪ねて

T-Force 〈嬉野市立大野原小中学校 愛称「大野原高原学園」〉

取材=小川勇氣 covered by Yuki Ogasawara

**全校生徒30名余りの小さな学校で  
練習に励む熱血先生と子どもたち**

佐賀県嬉野市の山深い場所に、全校生徒わずか33人の小さな学校がある。大野原小中学校だ。長年、ソフトテニスと卓球の強豪として数々の実績を残してきた同校に、今、新たな取り組みで活動しているチームがある。そのチームの名は「T-Force (ティーフォース)」。

**「力」と「お茶」が融合する場所**

チーム名の由来を、顧問の梶山厚先生(理科教諭)は茶目つ気たっぷりに語る。「物理的な力(Force)と、この地の名産である『お茶(Tea)』をくっつけたんです。映画『スター・ウォーズ』の『フォース』のような、精神的な力という意味も込めてね」。

かつては「大野原小クラブ」として活動していたが、小学校と中学校のクラブ登録を一本化し、他校の生徒も受け入れられるように2年ほど前にこの名称へ変更した。少子化で生徒数が減る中、チームとしての存続と強化を両立させるための決断だった。

**未経験から始まった30年の熱意**

梶山先生は、実は卓球未経験者である。もともとは柔道部や野球部の顧問をしていたが、30年以上前の学校に最初に赴任した際、前任者から「勉強してやってみる」と背中を押されたのが始まりだった。

「最初は何も知らなかった。でも、最初の年に全日本カデットに連れて行ってもらった時の、あの会場の雰囲気は圧倒されてね。またこういう場所に来たい、子どもたちに経験させたい、と思ったんです」

そこから独学で指導法を学び、今では県内外の強豪校に選手を送り出すほどになった。梶山先生が大切にしているのは、技術以上に「自信を持たせること」だ。

「ここは田舎の小さな学校。子どもたちは高校へ行く」



## 愛知から「卓球留学」してきた家族

た時に自信をなくしがちなんです。だから、卓球で勝つことで「自分もやれるんだ」という自信を持たせたい」

TI Forceの躍進を支えるのは、地元の子だけではない。この学校には「高原留学制度」があり、全校生徒の約半分が校区外から通っている。

中学3年の川合裕大さんは、4年前、愛知県豊橋市から家族で移住してきた。両親がリモートワーク可能な仕事だったこともあり、自然の豊かさと質の高い卓球環境を求めて、この大野原を選んだのだ。

「愛知にいた時は卓球と勉強の両立が難しかったけど、ここは少人数で先生がみっちり教えてくれるから、勉強も卓球も好きになりにしっかりできる。学力も以前より伸びました」（裕大さん）

母の宏美さんも、「宿題を忘れたら練習に参加させてもらえないなど、文武両道を徹底してくれるので安心して預けられる」と、この環境への信頼感を語る。

## 世代を超えた絆と、新たな挑戦

TI Forceでは小学生と中学生が同じ台を囲み、真剣にラリーを続ける。中学3年で主将の田中唯翔さんは、小学1年の頃から、ここでラケットを握ってきた。

「学年に関係なくみんな仲が良いのが、この学校とチームのいいところですよ」（田中主将）。大変なこともあるが、強い相手に勝った時の達成感が何よりのやりがいだという。



もたちにとっても幸せなことですね」（田中悦子さん）

田中さんのほかに、チームにはコーチを務める保護者が複数名いて、強化の原動力となっている。

## 全国という「夢」へ向かって

現在、TI Forceは佐賀県内屈指の実力を誇り、とりわけ川合裕大さんは2025年に、シングルスで全中（全国中学校大会）への出場も果たした。そして、梶山先生や田中主将が見据えるのは、さらにハードルが高い「団体戦での全中出場」だ。

「今年はこの層が厚い。みんな全国に行きたい」と、主将の言葉には力がこもる。

過疎化や部活動の地域展開など、地方のスポーツ環境は厳しい状況にある。しかし、大野原には学校、保護者、そして地域が一体となって子どもたちを支える熱いコミュニティが息づいている。

「スポーツは何でも勝たないと楽しくない。でも、もし勝てなくても、ここで一生懸命頑張った経験は、必ず将来の糧になる」（梶山先生）

梶山先生の温かな眼差しの中、お茶の香りが漂う高原の体育館で、今日もTI Forceの子どもたちが放つ快音は、響き続けている。

かつては男子のみだった卓球部だが、今では女子選手たちの姿もある。そのきっかけを作ったのは、梶山先生の教え子でもある保護者の田中悦子さんだ。娘（芽那さん）の「卓球をやりたい」という熱意を受け、自らコーチとなって校外で活動していたところ、梶山先生から「一緒にやりましょう」と、誘ってもらったのだ。

「先生のおかげで、今は男女一緒に切磋琢磨できる環境があります。チーム内にライバルがいるのは、子どもたちにとってもいいですね」（田中悦子さん）



顧問を務める梶山厚先生

川合さん親子。左から母・宏美さん、裕大さん、滉大（こうた）さん、祥大（しょうた）さん



↑中学男子のエースは愛知から来た「高原留學生」のカットマン・川合裕大さん



↑梶山先生の教え子・田中悦子さん（右）は保護者兼コーチ



取材当日は練習試合。長崎&福岡の選手たちと記念撮影



↑中学男子のキャプテンを務める田中唯翔さん。目標は団体での全中出場だ



↓女子は人数は少ないが、全日本選手権カブの部の県予選上位を独占するほど強い